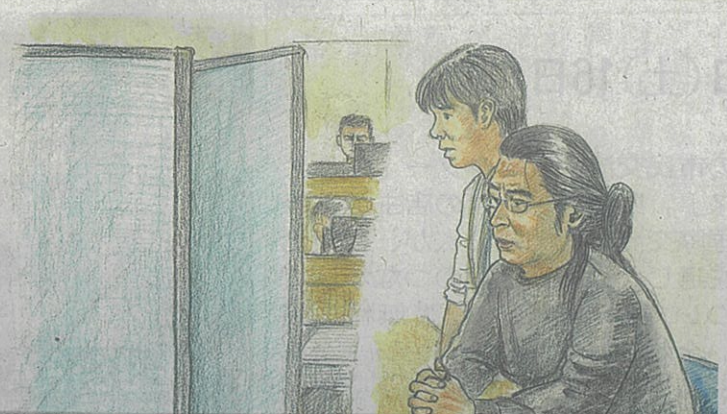
被告「母を信じたかった」



山上徹也被告(45)のものかと腹が立った。13日、奈良地裁の公判。夫が亡くなったのはなぜか。した。証言台で被告が再び降り自殺だった。私が優しくしの徹也」と呼び、本人へ、そうならなかったと後悔した。って母親として謝罪し被告の兄の健康状態はどうだ告に発言機会はなく、めは明らかにならない。の腫瘍があり、右目を失明した。が、事件前、旧ツイッタ教団に入信したのはいつか。X）で母親への思いを年8月。ねていた。「母を信じ入信後すぐに献金したのか。た」。叫びのような投年3月までに5千万円献金し愛憎がにじんでいた。兄の）命を守りたいと思った。父親（被告の祖父）が入信を

事件前投稿 教

被告の一家は両親の兄、妹の5人家族だ父親は被告が4歳の韓国に行った時と、（教団から購死。兄は病気で片目の絵画を床の間に置いていたら「出失った。苦しみの中に」と言われた。親の元を教団の信者が父親が亡くなってどんなこときたのは10歳の時。母ぐに入信し、家族に暴や父親の事務所を売って献金し年間で1億円を献金した。の生命保険金にも手子どもたちの進学の時期だっ

父親との大きな騒動はあったはいつ。～94年ごろ、韓国に修練会に行

被告の兄の健康状態はどうだ

教団に入信したのはいつか。

入信後すぐに献金したのか。

父親（被告の祖父）が入信を

重なって高額な献金をしたと証言した。明らかにした。（18面に関連記事）

公判は教団の影響や「宗教的虐待」などが焦点で、弁護側による情状面の立証が本格的に始まった。裁判員の判断にどう影響するか注目される。

弁護団によると母親は70代。パートされた状の冒頭で「韓変な事件ま い、心は法廷ます。母れ わびしキ

母親の心の支配は、宗教による信者への虐待とも捉えられる。公判を契機とし、教団の献金の仕組みや判断力を奪うやり方がより詳細に明らかになることを期待する。社会全体がなぜ問題を放置し続けたのか、政治家の関与も含め調査し、原因究明を進めなければならない。

がら母親の証言を聞き、小さくため息をついた。母親の証人尋問の前には、弁護側の証拠として被告と家族とのメールが読み上げられ、被告は机に肘をついて両手で頭を抱えた。

弁護人によると母親は事件後、面会を複数回申し込んだが被告が拒否した。公判では証人尋問終了後から退廷するまで、被告をずっと見つめていたという。

この日も朝から341人が33席の一般傍聴席を求めて地裁近くに集まった。倍率は10・3倍となった。

規格外の果物 飼料に

「香大実りポーク」新登場

モモ→脂さっぱり■ブドウ→甘みしっかり

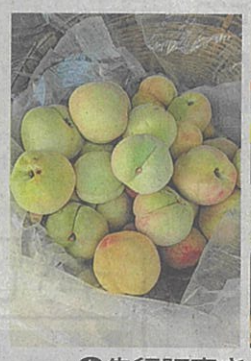
モモを食べた豚は脂がさっぱり、ブドウを与えた豚は甘みしっかり―。香川大農学部が、付属農場で栽培した規格外の果物を飼料にした同農場産の豚肉「香大実りポーク」を今月お披露目した。関係者によると、一般的な豚肉と味わいが異なり、与えた果実によっても肉の香りや脂の乗り方が違うという。現在、同大医学部付属病院食堂で、モモで育てた豚肉を使った料理を提供している。

農学部生がフィールド実習の一環として出荷用に育てた果物で、収穫時に傷付いたり熟れ過ぎたりしているものを活用できないかと始めたプロジェクト。動物の飼料研究を専門にする川崎淨教准教授の研究室生と農場職員が協力し、2015年ごろから通常飼料に加えてブドウを与えた豚の肉を試食したところ、通常のものに比べて果実由来の甘みが感じられた。以降、モモやブドウ、ウメなどのいずれか1種を出荷する1カ月ほど前から丸ごと与え、「モモを与えた豚は脂がさっぱりしている」「ウメを飼料にした豚は肉質が適度に引き締まっている」などと比較している。

これまでは農場の未利用資源を使った動物飼料・栄養学研究と、持続可能な開発目標（SDGs）の観点からプロジェクトを続けてきたが、昨年に農学部長から学内農場をPRできる取り組みはないかと問われたのを契機に販売することに。今年9月に出荷した豚肉約370キロを使い、今月3日に同大で開かれた「オープンキャンパス収穫祭2025」で豚串とトンカツ弁当を発売すると、大勢の購入希望者が詰めかけた。

川崎准教授と農場技術職員で動物飼育管理を担当する矢野公伸さんは「規格外の果物を減らしたい農場果樹部門と、飼料にする果物をたくさん欲しい畜産部門の攻防戦はある」と苦笑いしつつも「多部門が隣り合わせになった農場を持つ大学だからこそ実現した取り組み」と口をそろえる。

現在、一般の人も利用できる同大医学部付属病院のレストランオリーブで「香大実りポークとんかつ定食」（1500円）として販売中（売り切れ次第終了）。今後「香大実りポーク」ブランドとしての一般流通を目指している。



右先行販売されている「香大実りポーク」を使ったトンカツ定食 左飼料として与えた規格外のモモ

「面白い人だった」役所さんらが別れ

仲代達矢さん通夜

8日に死去した俳優仲代達矢さんの通夜が13日、仲代さんが主宰した東京都世田谷区の「無名塾」で営まれ、無名塾出身の俳優役所広司さんや益岡徹さんらが参列した。取材に応じた役所さんは「世間では重厚で怖いイメージだったかもしれないが、ユーモアがあって面白い人。稽古で失敗してもそれすら楽しんでいた」と故人をしのんだ。

無名塾時代は入塾式に遅刻したり、謹慎処分を受けたりと「いい塾生ではなかった」と役所さん。何度も遅刻を叱られ「現場に早く行く習慣がついた」とし「親でもないのに怒ってくれて、ありがたい」と感謝した。

最後に会ったのは、仲代さんが5、6月に石川県七尾市の能登演劇堂で開いた能登半島地震復興公演に出発する直前だったという。

「会うたびに『舞台をやりなさいよ』と言われていた」と振り返り、恩師のアドバイスを改めて胸に刻んだ。

築業笠井照雄さん(64)方から出火、木造2階建てをほぼ全焼した。小豆署が出火原因や焼失面積を調べている。

追突事故

広末さん「一瞬考え事」

同乗者骨折疑い 書類送検

静岡県の新東名高速道路で4月に俳優広末涼子さん(45)が運転する乗用車が大型トレーラーに追突した事故で、広末さんが県警の任意の調べに「一瞬考え事をしたら、ぶつかってしまった」と説明したことが13日、捜査関係者への取材で分かった。追突直前に時速185キロ近く出ていたとみられ、ブレーキなどの操作ができなかった疑いがある。

捜査関係者によると、県警は同日、事故で同乗の男性を骨折させたとして自動車運転処罰法違反（過失傷害）容疑で広末さんを書類送検した。

書類送検容疑は4月7日、静岡県の新東名高速道路の粟ケ岳トンネル内で、185キロ近くの速度で乗用車を運転し、大型トレーラーに追突して同乗していた男性に骨折のけがを負わせた疑い。起訴を求める厳重処分の意見を付けたとみられる。

県警は事故後、経緯を調べるため広末さんを県内の警察施設に呼ぶなどして話を聴いていた。広末さんは事故直前の状況について「ぼーっとしていた」などとも説明したという。

◆ロマンス詐欺、60代男性が4億円超被害 大阪府警は13日、大阪府内の自営業の60代男性が、交流サイト（SNS）で女性を名乗るアカウントから投資を持ちかけられ、金地金など計約4億4千万円相当をだまし取られたと発表した。男性は実際に会ったことはなかったが、府警は、女性への恋愛感情につけ込んだロマンス詐欺とみて捜査している。

報をお寄せください

県内の出来事や記事に関する情報、災害や事件事故の映像などをお寄せください。▷電話〈087（833）9〉▷ファクス〈087（833）2451〉▷メール〈hou udou@shikoku-np.co.jp〉。動画や写真は「SCOOPポスト」へ（QRコードから）。

四国新聞社編集局報道部

Pドラゴン 実態解明急ぐ

名簿に20万人分の情報

中的に80代以上狙いか

フィリピン拠点 特殊詐欺

福岡県警は、フィリピンを拠点に特殊詐欺事件に関与したとされる暴力団系の日本人集団「JPドラゴン」の実態解明を進めている。現地当局に強制送還された構成員の男6人を、詐欺などの容疑で9月に逮捕。アジトからは被害者の名前が含まれた名簿や、多数のスマートフォンが見つかった。県警幹部は「押収物を分析し、指示系

リピン国内の2階建ての一軒家。構成員らは「ピンクハウス」と呼んだこの拠点から、日本時間午前8時～午後6時ごろに合わせ、日本国内に詐欺の電話をかけていたとみられる。

逃走防止のための塀や監視カメラはなく、捜査幹部は「海外拠点の犯罪集団では、かけ子は軟禁状態に置かれることも多い。JPドラゴンは比較的自由だったのではないか」とみる。

押収された名簿の個人情報は20

されたA4紙約4600枚が住所ごとにまとめられ、書類ケースに整理されていた。家族構成や地名の読み仮名など、手書きのメモもみられた。

詐欺被害に遭った約160人分の名前もあった。捜査幹部は「80代以上をピックアップしていて、集中的に狙った形跡もうかがえる」と明かす。

県警は今月12日、6人を再逮捕。逮捕は4度目で、フィリピン当局が拘束しているリーダーの男の引き渡しに向け、調整も進めている。捜査幹部は「上位者を含めJPドラゴンを壊滅させ、他の海外拠点